

令和2年度

事業報告書

【重点項目】

- 1 地域住民に選ばれ、利用者に喜ばれる施設にする。
- 2 誇りを持てる職場にする。
- 3 経営基盤の安定化を図る。

社会福祉法人おおぎだ

目 次

令和2年度社会福祉法人おおぎだ事業報告

事務局.....p1

各事業所別事業報告

特別養護老人ホームローズヒル(従来型・ユニット型) p5

短期入所生活介護(ショートステイサービス) p7

茂呂デイサービスセンター P8

美茂呂デイサービスセンター p9

ケアハウス菜の花 p10

茂呂ヘルプサービスセンター p11

茂呂居宅介護支援事業所 p12

厨房部門 p13

1 重点項目に基づき報告

(1) 地域住民に選ばれ、利用者に喜ばれる施設にする。

- ① 新型コロナウイルスの感染拡大により、各種イベントが中止となりました。「知ってもらおう介護の仕事」については、パンフレット等を中学生に渡すことで対応しました。
- ② 災害時の事業継続計画の立案を行いました。今後は、実践で活かせるように定期的に見直しを行っていきます。
- ③ 看取り介護の充実のため、看取りの研修会を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響により実施することができませんでした。一方で、増床に伴い、看取り部屋の整備を行うことができました。

(2) 誇りを持てる職場にする。

- ① 特定処遇改善加算の取得を行い、職員の技能と経験により配分を行っています。
- ② 処遇変更希望調査を行い、本人の希望に沿ったキャリアの実現に向けて部署異動を行いました。
- ③ 企業認証制度は、「ぐんま介護人材育成宣言事業者」として認証を受けることができました。

(3) 経営基盤の安定化を図る。

- ① 目標管理では、美茂呂デイサービス以外の部署で目標を達成することができました。今年度はデイサービスの差別化を図り、全部署での目標達成を目指します。
- ② 施行業者との打ち合わせを28回行い、令和2年度中に増床を行うことができました。
- ③ 職員の採用・育成・定着について検討する会議の実施と、ハローワークへの求人の強化により増床分の職員の増員を行うことができました。

2 理事会・評議員会

- | | | |
|-----------|--------|----------------------|
| (1)理事会開催 | 定例理事会 | (5月29日、10月30日、3月29日) |
| | 臨時理事会 | (6月14日、8月28日、12月14日) |
| (2)評議員会開催 | 定時評議員会 | (6月14日) |

3 施設運営管理

- (1)増床完成
- (2)給水ポンプユニット更新
- (3)茂呂デイサービス車両購入
- (4)法令管理体制委員会 4回開催
- (5)増床検討委員会 25回開催

4 予算・事業計画管理

- (1)月次報告
- (2)管理者会議 25回開催
職員処遇、求人関係、規程の改正、役員会・評議員会開催準備、制度の対応、予算関係、研修関係

5 人事・組織管理・人材育成

(1) 令和3年4月1日現在の職員数

総数 136 人(昨年度 127 人)

	特養(短期含む)		ケアハウス		訪問介護		茂呂デイサービス		美茂呂デイサービス		居宅介護支援事業		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
施設長(管理者)	1 (統括1)		(1)		(1)		(統括1)						
副施設長		1											
医師		(1)											
生活相談員	2		1				1		2				
サービス提供責任者					1	1							
介護職員	56	21	1				2	6		4			
看護職員	8						1	2	1	2			
訪問介護員						7							
介護支援専門員	2										2		
機能訓練指導員		1											
管理栄養士	1												
事務員	3	3											
合計	73	26	2		1	8	5	8	4	6	3		
令和2年4月1日参考	65	28	2		1	8	5	6	6	3	3		

注:()は総数に含まれない。

(2) 入・退職状況

	職員	専門職準職	一般準職員	嘱託	合計
入職者	19 (6)	0 (1)	9 (16)	0	28 (23)人
退職者	10 (9)	0 (0)	5 (4)	0	15 (10)人

注:()は昨年度実績

(3) 評価、処遇調査、個人面談実施

(4) 特養増床に伴い、必要人数である8名の増員を行うことができた。

6 自己研修 各事業所の報告による。

7 防災対策

(1) 防災委員会 2 回開催、研修会 2 回開催

(2) 消防訓練(昼想定)・水害訓練 9 月実施

消防訓練(夜想定)・防犯訓練 3 月実施

(3) 建築物、建物の点検(自主点検)実施 9 月、3 月

8 施設・設備維持管理

- (1)空調・ボイラー設備点検 7月、12月
- (2)全館定期清掃 11月
- (3)受水槽・水質検査点検 5月
- (4)厨房害虫調査 毎月実施

9 安全衛生

- (1)感染対策・事故防止委員会開催 各事業所報告による。
- (2)安全衛生委員会 22回開催（新型コロナウイルス感染防止関係）、研修会開催
職場巡視 11回実施、嘱託医との話し合い 12回開催
- (3)浴槽ろ過装置点検実施 8月
- (4)浴槽水質検査実施 6月
- (5)職員健康診断実施 4月(夜勤者)、10月全職員
- (6)インフルエンザ予防接種実施 12月
- (7)ストレスチェック実施 9月
- (8)腰痛予防アンケート実施 10月、3月(特養)

10 サービスの向上

(1)連携会議 12回開催

利用空き情報、事業所間の情報交換と業務改善提案、地域や家族の情報交換、会計月次報告、増築の進捗状況、理事会・評議員会報告、介護報酬の改定内容の周知

(2)ISP(生きがいサポートプロジェクト)会議の実施

①採用・定着・育成について 6回開催

(3)苦情改善委員会開催 9月、3月(書面の回覧)

苦情受付・皆様の声(意見箱)

受付日	申出人	内容
5月14日	特養入所者家族	大変と職員に言われたので、申し訳ない
9月14日	デイ利用家族	利用料の請求の件で配慮が足りない

11 地域福祉関係

(1)入所家族に関する事項

ローズヒル・短期入所者への面会状況

年 度	入所者の定員	年間	月平均
平成30年度	130人	5,441人	453人
令和元年度	130人	5,169人	430人
令和2年度	—	—	—

*令和2年度は、面会禁止の為カウントはありませんでした。

(2) ボランティア状況

- ①意見交換会と感謝会 中止
- ②慰問等は各事業所の報告による。
- ③感謝状授与

年 度	個 人	団 体
平成 30 年度	10 人	5 組
令和元年度	12 人	5 組
令和 2 年度	-	-

* 令和 2 年度は、受け入れ禁止の為対象者はありませんでした。

(3) 広報委員会 12 回開催

- ①おおぎだより 25 号、26 号発行
- ②ホームページの更新 10 月
- ③看板設置(東側駐車場、西側建物壁)
- ④パンフレットの変更

(4) 地域への広報活動

- ①ミニデイ支援中止
- ②チャレンジウィーク及び実習生の受入
- ③介護体験等の受入中止
- ④伊勢崎市公園緑地課主催「オープンガーデン」中止
- ⑤「知ってもらおう介護の仕事」は訪問中止の為資料のみ届ける。
- ⑥鯉のぼり掲揚(期間 4 月 21 日～5 月 12 日)

12 福利厚生

(1) 親睦会 補助支給 1 人 約 6,000 円

- ①クリスマスケーキ配布 (117 名)
- ②商品券(2,000 円分)配布 (123 名)

(2) 10 年表彰・アイデア表彰・職員紹介

	10 年表彰者	アイデア提案	職員紹介者
平成 30 年度	6 人(特養 5、デイ 1)	4 人(特養 4)	2 人(デイ 2)
令和 元年度	2 人(特養 1、デイ 1)	3 人(特養 3)	4 人(特養 3、訪問 1)
令和 2 年度	4 人(デイ 3、訪問 1)	2 人(特養 2)	2 人(特養 1、デイ 1)

注:()は所属事業所

特別養護老人ホームローズヒル（従来型・ユニット型）

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域住民に選ばれ、利用者に喜ばれる施設にする。

- ① 新型コロナウイルス感染防止のため、例年行っていた外出行事や、全員で集まる行事は中止になりました。新たに各丁目ごとで行う行事に方法を変えて、いもパーティー、ジャンクフードを楽しもう、さくらんぼ狩り、押花で作るコースター、家族に暑中見舞いを送る、縁日、花火大会、運動会、スナックローズヒル、年賀状作りなど年間で103の行事が行われました。
- ② 「職場体験学習」等も中止となり、消防訓練等も外部の方は不参加で行われました。今後は若い人たちに福祉の仕事を、知ってもらえるような新たな試みも検討していきます。
- ③ 看取り介護では、家族の望みとして治療を選択する場合も多く、看取りに繋がらない傾向にありましたが、1名の方は、美茂呂デイサービスよりショートステイを利用しローズヒルへとバトンを引き継ぎ、感染予防に留意しながらご家族と一緒に看取ることができました。

・ 看取り実績 1件

(2) 誇りを持てる職場にする。

① 職員研修・人材育成

【合同研修会開催実績】

5月 「感染予防と対策」 介護労働安定センターより講師派遣 5名参加

6月 食中毒防止・感染予防・介護職員等特定処遇改善加算についての説明

7月 事故防止・身体拘束

10月 新型コロナウイルス感染症対策・ガウンテクニック

1月 事故再発防止・身体拘束・高齢者虐待・賞与の説明

3月 感染認定看護師、医師ローズヒル視察

研修会を業務内の時間に7日間、毎日開催する方法に変えたことにより、多くの職員が参加できるようになりました。

【施設外研修】

・高齢者・障害者施設への応援職員派遣支援事業 12/16 1名参加

・看護研究部会 全2回 1名参加

【オンライン研修】

・2020年度ユニットリーダー研修 4名受講

・施設における感染症対策(看護師) 8名参加

施設内研修参加者延べ 220名 外部研修参加者延べ 3回

オンライン研修 参加 12名

【資格取得】

・介護福祉士国家資格合格者 2名

② 職員の募集、広報活動

新卒の学生を対象とした、就職面接会などは中止、実習生受け入れも中止となりました。新卒者1名、ハローワークを中心に多くの応募があり、元職員の

再雇用者も2名。介護労働安定センター実務者研修修了者も毎年、採用を継続しています。

【実習生受け入れ】

・介護労働安定センターオンライン実習

③ 有給休暇取得実績

477日/72人（有給取得日数/職員数） 平均6.6日（R1年上期4.9日）

(3) 経営基盤の安定化を図る。

① ベッド稼働率(短期入所生活介護含む) 従来型 94.9% ユニット型 91.2%

従来型は93%の目標に届いていますが、ユニット型は4月、5月、6月のショートステイ受け入れ停止の影響や、3月の入院者の急増により平均稼働率が伸びていない状況でした。

② 感染予防対策として従来型はガーグルベースの個別化、全体では手洗い場の環境整備やペーパータオルの設置方法の変更を行いました。

職員の外出や旅行先の制限なども行い、入所者のご家族面会も「アクリル板・ガラス越し」と「オンライン面会」での対応を行われました。

日頃の様子はFacebook等を活用してお伝えしています。

アクリル板・ガラス越し面会 216件 オンライン面会 84件

③ 平均介護度

従来型 4.02 ユニット型 3.91（参考 R2年3月末 従 4.06 ヌ 4.00）

短期入所生活介護(ショートステイサービス)

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域住民に選ばれ、利用者に喜ばれる施設にする。

① また来たいと思っ頂けるようなショートステイにする

情報収集項目の内容を詳細にし、出来る限り在宅生活と大きな変化がないようサービスを提供する事ができた。

② 緊急ショートを受け入れ

5名の利用者が緊急入所した。

急激な身体状況の悪化により、在宅生活が困難な利用者や、介護者の事情により介護困難となり利用された。

(2) 誇りを持てる職場にする。

特別養護老人ホームローズヒルに同じ。

(3) 経営基盤の安定化を図る。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、4月13日から事業を縮小したが、8月1日から通常運営に戻る。

新規利用者 23名 (令和1年度 54名 平成31年度 41名)

2 会議、行事等については特別養護老人ホームローズヒルに同じ。

美茂呂ダイサービスセンター

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域住民に選ばれ、利用者に喜ばれる施設にする。

- ① 新型コロナウイルス感染防止のため、集団レクリエーションはできなかったが、個々で制作・塗り絵・間違い探し等を行った。季節ごとのフロア飾りを行い、みもろだよりで紹介した。
- ② 地域のボランティア受け入れ、地域支援(ミニデイ)など、中止になってしまった。
- ③ 地域を巻き込んでのイベントは、今後検討を行う予定。
- ④ 美茂呂ダイからショート、ローズヒルとバトンをつなげることができた。(利用者 1 名)

(2) 誇りを持てる職場にする。

- ① 月 1～2 度のカンファレンスは、議事録を回覧し職員全員に周知できている。
- ② 5 日の有給取得はできている。
- ③ 寮母室のテーブルにアクリル板を設置し、感染予防をし、昼食休憩を取ることができた。
- ④ 茂呂・美茂呂合同研修として、コロナウイルス感染予防とヒヤリハット・事故の検証の 2 回行った。

(3) 経営基盤の安定化を図る。

- ① 1 日平均 20 名の目標に対して、14.2 名。
新型コロナウイルス感染防止のため、4 月は営業自粛(4/11～4/26)をし、5 月からも引き続き利用を控える方が多かったため、利用者が減少してしまった。
- ② 新規利用者 17 名。お試し 9 名。
担当者会議 27 回(コロナ感染予防のため照会が多かった)。
- ③ 7 月 1 日より、新型コロナウイルス感染症に係る通所介護報酬を算定した。

	H30 年度	R1 年度	R2 年度	前年同期比
要支援 1・2	558	781	858	109%
要介護 1～5	5,427	4,611	3,566	77%
計	5,985	5,392	4,424	82%

(年間利用延べ人数)

2 その他

- ① フロアでの密集・密接を避け、換気に努め、席の配置を工夫するとともに、テーブル数を増やし、アクリル板を設置して、新型コロナウイルス感染防止に努めた。
- ② 外出行事、おやつ作り、お祭り、ボランティアの受け入れを中止したが、ベランダの菜園では、ジャガイモ・ナス・キュウリ・オクラ等を栽培した。利用者が草取り、水やりなど行い、収穫を楽しむことができた。
- ③ 感染防止に努めながら、転倒防止の運動や、機能訓練メニューを利用者に分かりやすく表示し、行うことができた。
- ④ おやつ作りは感染予防対策を行い、3 月より、ご自分で召し上がる物にひと手間かける形で行った。また、下期より毎月、レモンティーやミルクティ、ココアなどおやつの時間に「選べるドリンク」を行い、好評だった。

茂呂デイサービスセンター

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域住民に選ばれ、利用者に喜ばれる施設にする。

- ① 新型コロナウイルス感染防止のため、おやつ作りは中止となった。代わりに、おやつバイキング・飲み物バイキングを企画した。おやつは、おせんべいやゼリーなどから選んで頂き、飲み物は、紅茶やコーヒー・イオン水から、好きなものを選んで頂くことで確実な水分補給にもなり好評だった。
- ② 地域のボランティア受け入れや地域支援(ミニデイ)も、コロナ感染拡大のため、中止になってしまった。
- ③ 茂呂居宅介護支援事業所との「よりみち講座」も、延期の予定だったが中止となった。
- ④ 集団レクリエーションは、密集を避けて中止しているが、代わりに個人制作に力を入れ作品集として、利用者のデイでの様子を写真に撮ってアルバムにし、9月と3月の2回利用者に渡すことができ、家族にも利用者にも好評だった。季節ごとのフロア飾りも制作でき、毎月「デイ通信・空き情報」を発行し、居宅介護支援事業所にもデイの様子を伝えることができた。

(2) 誇りを持てる職場にする。

- ① 非常勤職員が、茂呂デイと美茂呂デイを兼務し、利用者と職員数により、柔軟に双方の業務に就いて仕事をする事ができた。
- ② 利用者のニーズに合わせ、利用時間や送迎時間を柔軟に対応した。また、午後の入浴も定着し、茂呂デイの強みになっている。
- ③ 利用者人数が増えたことで、昼食休憩に決められた時間に入れられないという課題があったが、12:00からのパート採用で、休憩がとれるようになった。
- ④ 茂呂・美茂呂合同研修として、コロナウィルス感染予防とヒヤリハット・事故の検証の2回行った。

(3) 経営基盤の安定化を図る。

- ① 1日平均23名の目標に対して、24.3名で、目標が達成できた。
新型コロナウイルス感染防止のため、4月は営業自粛があったが、部署間で働く等のクロストレーニングが出来た。
- ② 新規利用者25名。(内:茂呂居宅12・他事業13:新規居宅(5件)新規ケアマネ(2名))
- ③ お試し19名。感染防止につとめ、1人2回以上のお試しをすることで、利用に繋がったケースが多かった。次年度も、継続していきたいと考えている。担当者会議64回。
- ④ おおぎだショート・特養入所へは、7名紹介し、バトンを渡す仕組みを構築中である。
- ⑤ 7月1日より、新型コロナウイルス感染症に係る通所介護報酬を算定した。

	H30年度	R1年度	R2年度	前年同期比
要支援1・2	649	390	378	96%
要介護1～5	5,396	6,858	7,187	104%
計	6,045	7,248	7,565	104%

(年間利用延べ人数)

2 その他

- ① コロナ感染予防対策として、利用者の検温(午前午後2回実施)、手指消毒をこまめに行なった。また、畳を撤去してベット数を増やした。送迎車を1台購入した。
- ② 誕生日カードを作成し、記念写真を撮って利用者にプレゼントした。

ケアハウス菜の花

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域住民に選ばれ、利用者に喜ばれる施設にする。

コロナウイルス感染防止に伴い、伊勢崎市主催のオープンガーデンや地域の行事の「北千木作品展」、「特別支援学校運動会」「きりのこまつり」等の参加・見学が中止となったが、毎年行われている行事の為、次年度以降も参加交流しケアハウス菜の花を知って頂く機会を作っていく。

(2) 誇りを持てる職場にする。

① 冷蔵庫点検 7 月実施

② 電気製品を居室訪問時にチェックし、危険な所を確認。正しく使用して頂くように周知。

③ コロナウイルス感染防止対策により変更や代替えを行った。

- ・防災訓練は職員のみ参加となった。
- ・伊勢崎市主催の結核検診は 10 月以降かかりつけ医やご家族対応で検診をお願いした。
- ・クリスマス会では自分たちでお好み焼きを焼き、美味しいケーキを食べ楽しい時間を過ごした。
- ・外出禁止が続く中、3 月に誕生会を実施。入居者全員参加で居宅の応援をいただき、市民のもり公園に河津桜を見に行くことができ、昼食は出前ランチで楽しんだ。
- ・家族面談会、納涼祭は中止となった。
- ・食事席は対面にならないように工夫し、前半・後半の分散で、9 月以降食事をしていただいた。
- ・ボランティアによるADL体操は一年を通して実施できなかった。
- ・菜の花で実施している体操を多くし、時には近くの公園で散歩をかねて体操する事もできた。
- ・感染の状況にあわせ希望者には職員代形で、月 1 回 30 分以内で買物や銀行等にお連れした。一年を通して買物ツアーができたのは 10 月に 1 回のみとなった。

(3) 経営基盤の安定化を図る。

① 稼働率 99.4% (1 ヶ月 14 名、11 カ月は 15 名) になり目標を達成できた。

- ・入居申込待機者で生活状況は一部の人のみの確認となった。
- ・空き情報は各部署連携会議で報告できた。
- ・1 名の退去があったが原状回復を迅速に行うことができた。

2 会議、研修

(1) 感染症委員会 (6 回)、研修会 (2 回)

* コロナウイルス対策で感染症委員会が多く開催された。

(2) 事故防止委員会 (4 回)、研修会 (2 回)

(3) 身体拘束委員会 (4 回)、研修会 (2 回)

(4) 施設内研修会

① 感染症予防と対策 2 日間実施

(5) 施設外研修会

① 身体拘束について、動画・Webで視聴(前半・後半で 2 回実施)

茂呂ヘルプサービスセンター

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

- (1) 地域住民に選ばれ、利用者に喜ばれる施設にする。
各居宅介護支援事業所との連携を行うことが出来た。
利用者が自立して生活が送れるよう、生活全般の援助が出来た。
- (2) 誇りを持てる職場にする。
ヘルパー会議等でヒヤリハットや事件事例、接遇、マナー等を学ぶことが出来たが、法令遵守については個人情報を含め、次年度に再度取り組む予定。
- (3) 経営基盤の安定化を図る。
 - ① 目標 650 時間に対し 809 時間の結果だった。
 - ② 全員で 9 名となったことにより目標時間に達することができた。
 - ③ 身体介護での利用時間は、令和 2 年 3 月末は 318 時間だったが、令和 3 年 3 月末では 457 時間となり、139 時間の増となった。

2 利用者状況

(1) 利用時間

- ① サービス提供時間 月平均 実績 = 716 時間 (目標 = 650 時間)
- ② 年度別比較

年度	月平均利用時間
平成 30 年	517 時間
令和 元年	679 時間
令和 2 年	809 時間

(2) 利用者数

合計 60 人 (前年度 55 人)

令和 3 年 3 月 31 日現在

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
9	9	15	14	8	4	1

(人)

(3) 新規利用

10 人 内訳は、要支援 3 人、要介護 7 人でした。(昨年度 16 人)

* 当施設内茂呂居宅介護支援事業所からの新規紹介 4 人。(昨年度 5 人)

(4) 時間追加希望

6 人 (前年度 6 人)

3 職員研修

(1) 施設内研修

ヘルパー会議 2 回 (11 月 19 日、2 月 18 日)

* 新型コロナウイルス感染症対策について「利用者との会話の中で、濃厚接触者に関する情報があれば、早めに情報交換をして感染予防に努めた。

(2) 施設外研修 なし

茂呂居宅介護支援事業所

1 おおぎだの重点項目に基づき報告。

(1) 地域住民に選ばれ、利用者に喜ばれる施設にする。

- ① 新型コロナウイルス感染拡大防止の為会議所の使用が中止となり、ミニデイサービスの開催はなかったが、ミニデイの開催の確認等を通して区長や民生委員と連携を図る事ができた。
- ② 新型コロナウイルス感染拡大防止の為特別介護相談日、ボランティアの受け入れ、ロビーコンサート、介護フェスタ(よりみち講座)は中止となった。
- ③ 新型コロナウイルスの影響によりサービス事業所の見学などは難しい状況であったが、常に多くのサービス事業所の情報を得ようネットの活用やケアマネ間による情報収集は行えた。複数のサービス事業所の紹介や体験等も通してもらい、納得のいくサービス利用を選択できている。

(2) 誇りの持てる職場にする。

- ① 更新研修など新型コロナウイルス感染防止の為研修会全般中止となった。
- ② 居宅会議では、各会議の報告やケアマネ間での意見交換等行えた。
- ③ 独居の方の対応や、急な状態の変化にも、他部署との連携により、早期に対応でき利用者、家族ともに不安なくサービスを継続できた。

(3) 経営基盤の安定化を図る

- ① 伊勢崎市からの要介護認定調査受託業務に関しては新型コロナウイルス感染防止の為減少した月もあったが特養の方の調査依頼や前年度同様に6件は毎月行えた。
- ② 初回加算は前年度15件、今年度は23件。入院時加算は、前年度7件、今年度12件となり前年度より取得できた。
- ③ 訪問介護に対する特定事業所集中減算に対しては今年度も対象外にできた。
- ④ 新規紹介に関しては、包括支援センターから前年度は10件、今年度は17件に増えた。職員の家族依頼が3件、民生委員から2件、他施設から2件、病院から7件、利用者から1件、利用者家族より3件、御本人より3件、デイサービスより3件の依頼を受ける事ができた。

2 サービス提供実績

月単位(小数点以下四捨五入)

(件)

	目標	R1 年	R2年
要支援	24	33	36
要介護	99	77	85

目標件数については要介護は達していないが、前年度比では実績件数は要支援、要介護ともに上回った。

厨房部門

1 行事

- (1) 行事食(月 1 回 全 12 回実施)、
- (2) 各部署にリクエストしたセレクト食(月 1 回 全 12 回実施)
- (3) 郷の旬彩 日本全国癒しの温泉旅(月 1 回 全11回実施、12 月はクリスマスメニュー)
- (4) 懐かしの洋食料理のイベント食(月 1 回 全 12 回実施)
- (5) その他
 - ①各部署の行事計画に沿ったサービスの提供
(お誕生日会、秋祭りなど)
 - ②毎月 1 日の昼食はお赤飯提供
 - ③月に 1 回日曜日の昼食は特養にパン提供
 - ④毎週日曜日の昼食はケアハウスに様々な種類のパン提供
 - ⑤各部署のおやつ作りの材料を提供
 - ⑥介護フェスタにおける、調理実習の開催

2 定例事業

- (1) 給食サービス委員会(月 1 回、全 12 回)
- (2) 嗜好調査(11 月)
- (3) 残食調査(毎食後)、評価・報告(6 月、9 月、12 月、3 月)
- (4) 備蓄食品点検(9 月)
- (5) 給食施設実施状況報告(12 月)

3 日常事業

- (1) 栄養ケアマネジメントによる個々の栄養管理
(入所者の身体状況管理、喫食量の把握、嗜好調査、栄養ケア計画・評価など)
- (2) 栄養帳票・衛生帳票の管理
- (3) 厨房職員への衛生指導(衛生勉強会 全 12 回等)

4 職員研修会

- (1) 安全衛生委員会
 - ①食中毒と感染予防(6月)
- (2) グリーンハウスグループ
 - ①刺身衛生講習会(8 月 2 名)
 - ②食品衛生責任者講習会(3 月 2 名)